

環境監査報告書への対応

ならコープの2017年度の環境に関する取り組み全般について、前進面を評価していただくとともに、今後の取り組みにあたってのご意見・ご提言を賜り、深く感謝申し上げます。ならコープグループとして、引き続き役職員一同はじめ、組合員とともに環境負荷の低減と地球温暖化防止を中心とした持続可能な循環型社会構築の取り組みをすすめて参ります。今回の監査で評価いただいた内容を励みとしつつ、「環境監査報告書」でご指摘頂いた内容については、真摯に受け止め、以下のように対応を致します。

今、地球環境の悪化が社会の存続基盤を損ないつつあるという強烈な危機感を背景に、国連持続可能な開発目標（SDGs）の採択やパリ協定の発効など、世界は、持続可能な発展を目指して大きく動いてきています。「持続可能な社会の実現」を理念に掲げる私たち生協は、この課題に真正面から取り組み、役割を發揮することが求められています。近年、大雨や台風の増加による水害、土砂災害、熱暑と極寒、豪雪などの影響は事業活動のリスクと直結しており、気候変動への対応が不可欠であり、ならコープでも対応準備をすすめています。これらのことからならコープでは気候変動への影響を最小限に抑えるため、事業活動における温室効果ガスの排出量を限りなくゼロに近づけるべく取り組んでいくことが、今後の大きな課題となります。最新の省エネ機器への設備更新や再生可能エネルギーの更なる拡大、「ならコープでんき」の電源に占める再生可能エネルギー比率の向上など環境保全への取り組みを効率的かつ効果的に推進し、事業活動における環境保全のためのコストとその活動により得られた効果を評価し事業を展開してまいります。また、品質及び環境に関するマネジメントシステムを効率的に運用することで継続的改善に努めてまいります。

店舗事業では、2017年に新店舗したならコープ with ローソン真美ヶ丘店に太陽光発電設備を設置し、発電した電気は同店舗で使用することでCO₂排出量ゼロの電気として使用できるように準備をすすめます。また、2017年度、設備の老朽化によりフロン漏えいが発生したコープいまごについては、開店から25年が経過していることから、コープなんごうやコープ七条と同様に環境配慮型店舗として設備更新するとともに、他店舗においても使用する電気使用量の削減に向けて設備の更新を計画的に行い、2030年に向けた温室効果ガス削減に向けた長期計画策定の準備をすすめます。これらの設備更新はフロン漏えい対策としても実施します。

無店舗事業ではBDF燃料使用車両の運用が2020年ごろまでに終了することから軽油使用量の増加が見込まれます。配達に使用する車両の小型化による燃費向上や配達効率の向上の検討をすすめながら、他生協の取り組みなど情報を収集し、次世代車両の調査等研究をすすめてまいります。

「ならコープでんき」の利用者数は順調に増加しています。電源に占める再生可能エネルギー比率50%以上をめざして取り組みます。「ならコープでんき」を利用すれば電気を使用することによる家庭から排出するCO₂低減につながるようすすめてまいります。小売電気事業を通じて、地球のため、未来のための選択を組合員とともに考えてまいります。あわせて、2018年度は「持続可能な開発目標（SDGs）」についての学習をすすめ、現在のためだけでなく将来世代のことを考えた取り組みについての学習をすすめます。また、日本生協連の「コープSDGs行動宣言」に賛同して、持続可能な開発目標（SDGs）の達成のために、生協が果たすべき役割などについて学習をすすめ、全国の生協と一緒に取り組んでいきます。

地域や行政との連携については、奈良県での共生社会づくりをならコープの使命と考え、行政や地域で活動している団体・個人とともに取り組みを進展させ、地域振興や防災・見守り活動など各地域のニーズに対応できるように取り組んでまいります。

以上